

鯖江市 第2期SDGs未来都市計画
(2022～2024)

持続可能なめがねのまちさばえ
～ジェンダー平等こそが輝く未来への鍵～

福井県鯖江市

< 目次 >

1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態.....	2
(2) 2030年のあるべき姿.....	7
(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	10
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....	13
(2) 情報発信.....	18
(3) 普及展開性.....	20
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映.....	21
(2) 行政体内部の執行体制.....	23
(3) ステークホルダーとの連携.....	25
(4) 自律的好循環の形成.....	28
4 地方創生・地域活性化への貢献	29

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

①地域特性

・ものづくりのまち

眼鏡フレームの国内生産シェア 9 割以上を占める眼鏡産業、繊維王国福井の中核を担ってきた繊維産業、約 1500 年の歴史を有し、国内の業務用漆器の約 8 割の生産シェアを占める漆器産業の三大地場産業を核としたものづくりのまちである。長年にわたる眼鏡フレームの開発・製造を通じて、チタンに代表される難加工材の精密加工技術が集積しているため、近年では、これらの技術を活かした医療やウェアラブル情報端末などの成長分野へ挑戦する企業が多く見られる。海外の販路開拓を見据え、女性デザイナーと女性職人が連携し、新しい使い方を提案する新商品の開発の動きも出ている。持続可能な社会に向けて、環境に配慮した眼鏡や漆器の製品も開発されており、「エシカル」をキーワードとして、アップサイクルなど、サーキュラーエコノミーへの取組が始まっている。

・人口が増えているまち

1955 年の市制施行以来、人口は増え続け、2019 年 1 月 1 日現在、市制最高値 69,469 人を記録し、2020 年の国勢調査でも 18 人の増加が見られたが、それ以降、ほぼ横ばいが続いている。福井県の中心に位置しており、鉄道や国道が南北に縦断するなど交通便利性が高いという優位性から、県内の近隣市町からの若者の転入が多い。さらに、鯖江市の取組に関心を持つ県内外の若者たちの交流人口、関係人口が増えている。

・学生連携によるまちづくり

鯖江市の学生連携によるまちづくりのスタートは、2004 年の福井豪雨をきっかけに始まった京都精華大学との連携による「河和田アートキャンプ」(※解説 1)である。その後、大学のない鯖江市において、明治大学、慶應義塾大学、津田塾大学、電気通信大学などさまざまな大学と新商品開発やまちづくりの分野において連携するとともに、大学生から提案される事業は何らかの形で具現化し、市の施策にいかしている。

女子高校生によるまちづくりプロジェクト「鯖江市役所 JK 課」(※解説 2)や学生が主体となり、地域活性化や観光振興など、まちづくりへの提案を行う「地域活性化プランコンテスト」(※解説 3)は、近年では全国で横展開するとともに、様々な賞を受賞するなど、全国から注目されている。

・市民協働によるまちづくり

延べ 3 万人の市民がボランティアとして参加した、地方都市でアジア初の開催となった、1995 年世界体操選手権鯖江大会の成功が市民の自信につながったことで、市民のまちづくりへの参画が盛んになった。

その後、市民提案により「鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例」(※解説 4)や「鯖

江市民主役条例」(※解説 5)が策定され、「市民主役のまちづくり」(※解説 6)や「オープンデータによる IT のまちづくり」(※解説 7)が推進されるなど、市民協働によるまちづくりを全国に先駆けて行ってきた。これらの成果を広く市民間で共有し、地域づくりに携わる人材育成を図り、幅広い層の市民を巻き込みながら底辺拡大を図っている。

・女性が輝くまち

福井県の女性の就業率・労働力率・共働き率は全国 1 位であり、特に、20 代から 40 代前半にかけての女性の就業率は女性活躍先進国であるスウェーデンを上回っており、鯖江市は県内トップの就業率を誇っている。

このように鯖江市は、女性が社会に進出し活躍している割合が高く、まちづくりに関しても、女子高校生が若い感性で楽しみながら地域と関わろうとする「鯖江市役所 JK 課」や「鯖江市 OC 課」(※解説 8)など、幅広い世代の女性が活躍している。女性が大きな役割を果たした地場産業の発展の歴史やまちづくりに女性が積極的に参加しているといった取組は、2018 年 5 月に開催された「2018 国連ニューヨーク本部 SDGs 推進会議」において高い評価を受けた。その会議で使用した、ジェンダー平等の実現が軸とするコンセプト眼鏡、メイドインサバエ「グローカル」(※解説 9)も好評であったため、鯖江市の SDGs 推進のシンボルマークとして啓発等に活用している。

また、男女共同参画・女性活躍推進地域活動拠点施設の「夢みらい館・さばえ」を活用し、世代間を超えた取組を展開しており、最近では LGBTQ に関する勉強会なども定期的に行われ、情報を発信している。

・鯖江モデル教育・高齢者の生涯学習

鯖江市は早くから、外国人講師の英会話による授業を実施したり、すべての小中学校でプログラミングクラブを開設したりするなど、将来を見据えた人材育成に積極的に取り組んでいるほか、「ものづくり」産業や地域資源を通して、ふるさと鯖江の愛着と誇りを養う教育の推進を図っている。

また、すべての小学校に「こどもエコクラブ」が開設され、環境に対する意識の更なる向上と環境保全活動の推進を図るとともに、国連が定めた SDGs を理解する学習を取り入れ、身近なところから考えるきっかけづくりを進めている。

高齢者の生涯学習について、全国的に稀有な高齢者の生涯学習施設である「高年大学」(※解説 10)において、受講生の自主的運営を基本としたユニークで特色あるカリキュラムやクラブ活動等を展開している。

②今後取り組む課題

・地場産業の縮小

内需の多様化、市場経済のグローバル化、産地間競争の激化等の影響により、ピーク時と比べ、産地全体の事業所は半減、従事者・出荷額は約 4 割減少している。そのため、従来の OEM 中心である「作る産地」から地域ブランドの確立による「作って売る産地」への

転換や産業観光促進による「楽しめる・愛される産地」の実現によって、地域全体の収益性の向上を図るとともに、地場産業で培った高度な加工技術を活かし、成長分野への参入を目指す必要がある。

・地場産業や地域活動の担い手不足

現在、人口はほぼ横ばい状態が続いているものの、若者を中心とした県外への転出超過に伴う社会減や少子高齢化に伴う自然減が進んでおり、特に若年層の人口減が深刻となるため、地場産業や地域活動の担い手不足が懸念される。

また、福井県の有効求人倍率は、1.80(2021年10月現在)で全国1位と非常に高いが、鯖江市の求人はサービスや生産工程の職業が多い一方で、求職は事務的職業の人氣が高いという、雇用のミスマッチを解消する必要がある。

・地域公共交通の再編

自家用車の利用が増加し、地域公共交通機関の利用が減少する中、公的支援がなければ、地域公共交通機関の維持が困難な状況になっている。そのような中、2024年春には北陸新幹線敦賀開業および2023年中には国道417号冠山峠道路の完成、その3年後の2027年にはリニア中央新幹線の名古屋まで開通予定など、高速交通ネットワークの整備がもたらす大きな変革の時代を迎えるが、新幹線の駅がない鯖江市では、これらを見据えたまちづくりが必要であり、北陸新幹線福井駅および越前たけふ駅、そして福井鉄道福武線・つつじバスとの連携や新たな高齢者の移動手段を研究するなど、利便性の高い交通網の確保が求められる。

・空き家の増加

近年の少子高齢化や人口減少、経済状況の変化を背景に、鯖江市においても、2020年度に実施した実態調査によれば、市内に750件以上の空き家が存在し、空き家の増加が深刻化している。特に、長年利用されずに放置された空き家は、倒壊事故やゴミの悪臭、害虫・獣害発生、さらには人の目がつきにくい空き家での不審者による放火や空き巣など、周辺住民の生活環境に悪影響を及ぼすとともに、治安悪化にも繋がっている。

そのため、鯖江市空家等対策計画を策定し、市民、自治会、関係団体と連携しながら、適正管理の啓発、空き家情報バンクへの登録による利活用の推進、空き家相談会の開催による空き家の解消や空き家発生の抑制など、良好な生活環境の保全および安全で安心な地域社会の実現を図っている。

・女性活躍への障害

2015年国勢調査によれば、鯖江市の女性就業率は55.1%となり、全国トップの県内でも1位である一方、2019年の調査によると、仕事と家事の従事時間が依然として女性の方が男性より3倍長く、女性の負担が大きくなっている。また、県内企業における女性の管理的職業従事者率は13.8%となり、全国平均の16.4%に比べて低く、鯖江市の町内会長は1人、市議会議員は1人であり、地域の代表者に占める女性の割合は低い現状にある。

また、現在、県内の近隣市町から、25歳から39歳までの子育て世代が多く転入してきており、核家族世帯、ひとり親世帯が増加傾向にあることから、きめ細やかな支援体制の構築に取り組む必要がある。

【解説】

※1 河和田アートキャンプ

大学生を鯖江市河和田地区に受け入れ、河和田地区内の豊かな地域資源である地場産業や自然環境を活用したアートの事業を展開することで、河和田地区の活性化を図る。2005年から15回実施され、河和田地区における夏の風物詩となっていた。現在でも、アートキャンプのOGOBを中心に活動が広がっている。

※2 鯖江市役所 JK 課

鯖江市において、若い世代である高校生、特に女子生徒のまちづくりへの参画が脆弱であることに鑑み、女子高校生によるまちづくりチームを結成。自らが企画した地域活動に大人や地域を巻き込みながら実践することを通じ、若者および女性が進んで行政参加を図っていくモデル構築を目的とする。2014年に13人でスタートした鯖江市役所 JK 課は、2021年度までで延べ108人が参加している。

※3 地域活性化プランコンテスト

「市長をやりませんか？」をキャッチフレーズに、全国の学生が鯖江市を良くするためのプランを考え、プレゼンテーションを行う。鯖江市ではすでに14回開催されるとともに、全国でも同様の地域活性化プランコンテストが実施されている。

※4 鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例

市民、市民団体、事業者、行政が対等の立場で連携、協働しながら、地域が求める新しい公共サービスを創り出し、市民が主役で活力にあふれた元気さばえを実現するために、2003年に制定。

※5 鯖江市民主役条例

自分たちのまちは自分たちがつくるという市民主役のまちづくりを進めることを目的として、市民による市民のための条例が2010年に制定。

※6 市民主役のまちづくり

鯖江市民主役条例の推進に向けて、市民団体「鯖江市民主役条例推進委員会(市民参画部会、地域自治部会、さばえブランド部会、若者部会)」が立ち上がった結果、提案型市民主役事業(市が実施する事業の中から、市民の提案により、新しい公共の担い手として市民自らが行ったほうが良い事業を市民主役事業として実施する制度)や市民まちづくり応援団事業(人材の掘り起こしや、持続可能な地域運営の基盤づくり、人と人をつなげるコーディネートに興味のある人材を発掘し、人材育成を図る事業)などが事業化された。

※7 オープンデータによるITのまちづくり

市民主役のまちづくりを推進する上で、市民との情報共有が不可欠だと考え、鯖江市に

保有するデータのオープンデータ化を 2010 年から始めている。

※8 鯖江市 OC 課

「鯖江市役所 JK 課」に触発されて、市内在住の女性(自称おばちゃん)達により 2014 年に結成。これまでに西山公園多目的トイレの改善提言や、全国 OC サミット in 鯖江の開催など、女性目線で地域の課題を検証し実践している。まちづくりで元気に輝く女性の新しい概念からおっちゃん、おねえちゃんへと広がっている。

※9 メイドインサバエ「グローカル」

SDGs をより多くの人々に知ってもらうためにコンセプトメガネとしてメイドインサバエ「グローカル」を作成。このメガネのデザインは、SDGs の 17 目標を左右各 8 目標に分け、これらの目標をつなぐブリッジは目標 5 の「ジェンダー平等実現」であるとした。このメガネのコンセプトは、一つのレンズで世界の動きを捉え、そしてもう一つのレンズで地域を考え行動する、「Think globally! Act locally!」である。



※10 高年大学

鯖江市在住で 60 歳以上の高齢者が、多種多様なカリキュラムを受講するとともに、地域社会活動に積極的に参加し、より豊かで充実した社会生活を営むために作られた、全国的にも稀有な高齢者の生涯学習施設である。この施設は、1979 年に開学し、2018 年で 40 年を迎えた。

(2) 2030年のあるべき姿

鯖江市固有の資源を最大限に活用することにより、地域のブランド力が高まり、魅力ある雇用が生まれ、若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりが実現される。

また、鯖江市が将来にわたって成長力を確保できるよう、経済界や市民、大学等が「Well-Being」という考え方のもと、協働で経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組んでいる。特に、性別、年代に関係なく、すべての分野において能力が生かされた環境のもと、「育てやすい、暮らしやすいまち」、「みんな輝く、市民活躍のまち」として、持続可能な地域社会の構築に貢献している。

① 魅力ある雇用の場の創出

・地場産業の技術を活かした新産業の創造

市と金融機関が連携して、中小企業の経営基盤の強化を図り、各機関の枠組みを超えて創業を支援。医療やウェアラブル情報端末関連等の成長分野に進出し、技術開発や新たな販路開拓を果たす。

・既存産業の高度化

企業マッチングを進めながら、販売力の強化や産学官連携による新素材・新技術・新商品の研究開発、IT・AI・IOTの積極的な導入、農商工連携による新たな加工品の開発・販路開拓などがなされ、「作るだけの産地」から、自ら開発・製品化して販売する「作って売る産地」になる。また、産業観光を促進し、「楽しみ・愛される産地」になる。

・若者に魅力ある働く場の確保

医療やウェアラブル情報端末関連等の成長分野に進出し、次世代を拓く企業の育成を行う。また、サテライトオフィスの誘致などにより、地域産業のイメージアップを図り、若者や女性の地元企業への就職が進む。

・女性が輝くまちの創造

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進に取り組む企業や女性起業家が増えるなど、女性が仕事と子育てを両立できるような環境が整い、家庭や地域生活等の私生活を充実できるよう多様な働き方が実現している。

・楽しくてもうかる農業経営の確立

「さばえ菜花米」を始めとした水稻を中心に、鯖江市でしか手に入らないこだわりのブランド農産物の栽培と販路開拓への支援、スマート農業の導入による従事者確保、コストの削減や経営の安定化により、収益性の高い、持続性のある農業経営が確立する。

化学肥料・農薬等を削減した営農活動に取り組む農業者が増え、生物多様性保全や地球温暖化防止に貢献している。

② 若者が住みたくなるまちの創造

・若者の夢を応援するまち～よそ者に寛大で多様性があるまち～

学生等の若者による創造力を市政に活用する学生連携事業や多世帯同居等の推進、移住者の定住促進、子育て、新婚世帯の住環境向上を通じて、若者や移住者がものづくり・まちづくりに惹かれて鯖江市に定住し、住みたくなる・住み続けたくなるまちとなる。

・さばえファン(関係人口)の獲得

本市の先駆的な取り組みやものづくり・歴史・伝統・文化といった魅力ある資源を様々な手段で広く発信することで、本市に関心を持ちかかわりを持ちたいと思う人や企業、大学を増加させ、将来的に移住・定住人口の増加につながっている。

・河和田キャンパス(創造産地 創造産地)の構築

「うるしの里」河和田地区の伝統的な地域産業や自然、文化等の地域資源を積極的に活用した交流事業や環境整備事業を実施することにより、交流人口や移住・定住人口の増加を図り、地域の賑わいがうまれる。

・ものづくり教育とふるさと学習の推進

ものづくり体験等を通して伝統ある地場産業の魅力を理解し、また、先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学ぶことを通じて、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、そして豊かな人間性・社会性を持った児童生徒が育まれる。

・参加と協働による市民活躍

市民と協働のまちづくりを目指した「市民主役条例」に基づき、市民がふるさとに愛着や誇りを持ち、自らが市政に直接的に広く参画するような、市民主役、全員参加の活気あるまちとなる。

・地域資源を活かす観光の推進

西山公園や道の駅一帯の自然環境や眼鏡・繊維・漆器に代表される「ものづくり」産業などを地域資源と捉え、丹南地域(鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町の隣接2市3町)や県内外との広域連携も視野に入れた、インバウンド消費にも対応できる産業観光が整う。また、観光プランの整備や情報発信の充実が進み、まち歩きができるような特色ある観光が整う。

③ 若くて元気なまちの創造

・安心して結婚・出産・子育てができるまち

子育ての喜びが実感できるとともに、安心して子育てができるよう、妊娠期から学齢期まで切れ目のない子育て環境となる。また、若者の出会いや交流の場づくりなど、素敵な出会いができる環境づくりが進む。

・子どもがいきいきと過ごすまち

IT機器を活用し、わかりやすい授業を実施することで基礎学力が定着し、学力の向上が見られるとともに、スポーツ環境を充実し、子どもたちがスポーツに親しむことのできる

環境づくりに努めたことにより、健康な心身の育成が進む。持続可能な地域や世界に向けての事業を推進し、自ら考え行動できる豊かな人間性、社会性をもつ子どもたちを育む環境づくりが進む。

・生涯現役で生涯青春のまち

誰もが生涯にわたり、健やかで自立した生活を送りながら、目的を持っていきいきと活動し、長寿による豊かさを実感できるよう、様々な場面で高齢者が活躍できる環境づくりが進む。特に、全国的に稀有な生涯学習施設である「高年大学」においては、高齢者の生きがいつくりの場や機会の充実が進む。

④ 安心で快適に暮らせるまちの創造

・デジタルファーストの推進

「ITのまち鯖江」として近未来のインフラであるオープンデータ(データシティ鯖江)の推進に取り組み、誰もがデジタル化の恩恵を受け、より豊かな生活を享受できるようになる。さらに、行政手続きの電子申請化をはじめとするDXを推進し、自宅に居ながら行政手続きを完結できる環境が進む。これにより、市民サービスが向上し行政事務の簡素化や効率化につながる。

・幹線交通網の変化を見据えた二次交通網の整備

北陸新幹線敦賀開業、冠山峠道路やリニア中央新幹線の名古屋開通に伴う幹線交通網の変化を見据えて、鯖江駅や北鯖江駅の利用促進やコミュニティバス「つつじバス」の利便性が図られる。新たな交通手段の導入や高速バスの利用利便性を高めたことにより、利便性の高い交通網が整う。

・強靱で安全・安心なまち

防育により、市民の防災に対する意識が高まるとともに、市民と行政が協働で防災・減災に取り組んでいる。また、市内の空き家の状況を把握し利活用を図る等の対策を講じたことにより、周辺住民の生活環境がよくなり、子どもから高齢者まで全ての市民が安全で安心した生活を過ごすことができる。

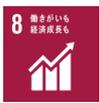
・環境にやさしい魅力的なまち

市民・市民団体・事業者・行政が連携を図り、循環型社会を構築し、自然環境や生活環境が保全されるとともに、企業とも連携し、脱炭素循環型社会の仕組みが構築され、豊かな自然環境を保全するため、地球温暖化等に配慮して行動できる人材の育成が進んでいる。

また、「ゼロカーボンシティ」として、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、市民、産業界と協働で取組を推進している。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5・c	指標: 女性起業家数(累計)	
	現在(2021年3月): 31人	2024年: 35人
 8・3 8・5 8・9	指標: サテライトオフィス誘致件数	
	現在(2021年3月): 8件	2024年: 10件
 9・2 9・b	指標: 成長分野の海外販路開拓件数	
	現在(2021年3月): 14件	2024年: 22件

地場産業の縮小により、若者や女性が地方離れする原因の一つとなっていたが、鯖江市最大の武器である地場産業の蓄積した高度な技術を最大限に活用して、他の成長分野に進出するなど新産業を創出し、販路拡大に取り組む。また、起業・創業促進支援や創業スタートアップ支援、女性起業家育成プログラムの実施、農商工連携による新たな商品の開発や農業の6次産業化、サテライトオフィスの積極的な誘致などを推進することにより、若者や女性にとって魅力ある雇用の場を創出する。さらに、子育て応援企業の認定、めがねのまち企業魅力づくりプロジェクトの実施などにより、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進に取り組む企業を増やし、仕事と子育てを両立できるような環境を整備し、多様な働き方ができる事業の実施や他地域との連携を図ることで、先進的なロールモデルを発信し、「働きたくなる・働き続けたいくなるまち鯖江」を実現する。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8・3 8・8 10・7  11・3	指標: 移住相談件数	
	現在(2021年3月): 37件	2024年: 80件

		
	17・17	指標:まちづくりの提案事業数
		現在(2021年3月): 63件
		2024年: 70件
	5・C 10・2	指標:性別記載欄の削除・見直し可能な書類等のうち、削除済の書類等の割合
		現在(2021年3月): 36.7%
		2024年: 100%

若者や女性の柔軟で豊かな発想や創造力を市政に活かす学生連携事業を通じて、市外の若者や女性がものづくりの魅力と可能性に惹かれて定住し地場産業に携わるという好循環が生まれるとともに、全ての市民が主体的にまちづくりに参加できる「市民主役」「市民協働」の取り組みを通じて、自ら市政に参加する市民や団体が増加する。

また、女子高校生によるまちづくりプロジェクト「鯖江市役所 JK 課」や地元高校との地域連携事業など、高校生のまちづくり参加の促進を図り、次世代のふるさとを担う人材の育成を目指している。

少子高齢化などによる人口減少が懸念される中、男女がともに活躍できる社会を実現するとともに、国籍、言語、文化の多様性を認め尊重し合い、同じ地域に暮らす市民としての相互理解を育むことで、性別、年齢、障害の有無、国籍を問わず、全ての市民が居場所と役割を持ち、ともに生きる共生社会の実現と、誰もが自分らしく生きられる社会を目指す。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
	9・4 9・b 11・6	指標:ごみの1人1日あたりの排出量
		現在(2021年3月): 942グラム
		2024年: 810グラム

 9-4  9-b  12-5 13-3	指標:資源化率	
	現在(2021年3月): 11.8%	2024年: 17%
 12-2  12-5 12-8	指標:空き家利活用件数	
	現在(2021年3月): 16件	2024年: 25件
 11-3  15-1  17-17	指標:公園里親の登録数	
	現在(2021年3月): 94団体	2024年: 98団体

女性や若者をはじめとする市民、企業、学校などが連携し、ごみの減量化や再資源化を推進するとともに、ものづくりのまちとして、アップサイクル等、材料調達、製品設計の段階から回収、資源の再利用を目指す、サーキュラーエコノミーの推進を図り、脱炭素循環型社会の構築を目指す。

また、自然環境に配慮して行動できる人材育成に取り組み、自然環境や生活環境の保全の推進を図るとともに、市内の空き家の状況を把握し利活用を図る等の対策を講じることにより、子どもから高齢者まで市民が「安全で安心して暮らせる・暮らし続けられるまち」を目指す。

2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

① SDGs の普及啓発とパートナーシップの確立

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11・3  17・17	指標:SDGs 推進連携企業・団体数	
	現在(2021年3月): 46団体	2024年: 140団体

SDGs の達成に向け、啓発やPRを通して、SDGs についての認知度と市民理解、企業理解を高め、市民一人ひとりが「自分事として行動する」機運を高める。

また、SDGs 推進活動拠点施設「さばえ SDGs 推進センター」を中心に、様々な事業を通じて、市民、市民団体、企業、学校などとの連携・協力を強化し、それぞれの特性をいかした推進活動の促進を図る。

①-1 SDGs パートナーシップ事業

「さばえ SDGs 推進センター」を中心に、SDGs 推進の研修会や展示、イベントの開催、SDGs イメージカラー等を使用した眼鏡型ピンバッジやSNSを活用した啓発により、オール鯖江としての機運を醸成する。地域おこし協力隊と連携し、国内外への情報発信を行う。

①-2 めがねのまちさばえ SDGs 発信事業

若者や女性が活躍するまちづくりを中心とした市の取り組みや、SDGs 推進活動の状況などを国内外に向けて発信する。本市の SDGs シンボルマークである「グローバル」を活用し、企業と連携したキャンペーンによる啓発活動や SDGs の行動をみえる化した市民参加型の「さばえ SDGs フェス」を開催し、その様子を地元CATVが番組で上映するほか、SNS等を活用し国内外に発信する。

①-3 エシカルライフ推進事業

消費者や生産者が「地域や社会、地球環境、人々のことを考慮して作られたものやサービスを選んで消費する」という意識を持って生活できるようエシカル消費を推進する。

②誰もが輝くまち鯖江の推進

ゴール、 ターゲット番号		KPI		
 5 ジェンダー平等を 実現しよう	5・5	指標: 審議会等における女性の登用率		
	5・c	現在(2021年3月):	2024年:	
	8・8	34.7%	40%	
	10・2			
 8 働きがいも 経済成長も	 10 人や国の不平等 をなくそう	指標: 多様な働き方導入推進事業採択数		
		3・1	現在(2021年3月):	2024年:
		5・4	1社	10社
		5・5		
		5・c		
		8・5		
10・2				

ジェンダー平等の実現はSDGsの17の目標を達成するための礎になるとの考えのもと、誰もがいきいきと輝きエンパワーメントを十分に発揮できる環境を醸成する。

特に、女性の活躍推進の事業が好循環を生み、ロールモデルとして横展開を図り、ますます活発化することで、男女共同参画社会が確立し、若者がまちづくりに積極的に参加するようなまちになり、まちも活気づくようになる。また、活気づくことで、多様なステークホルダーが集まり、新たな事業展開を生み出すことができる。

②-1 女性活躍プラットフォーム創出事業

女性活躍を推進している企業経営者の会「さばえ38組」を中心に、取組みの紹介や意見交換会、経営者向けの女性活躍セミナーなどを実施し、企業意識におけるリーダーの意識改革と女性活躍推進の取組のネットワークを市全体に広げる。

②-2 男女共同参画地域推進事業

男女共同参画・女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」を中心に、男女共同参画・SDGs推進を担う人材育成を目的とした研修会や地域における男女共同参画推進を目的に、地域と人とのつながりを持ち意見交換を行う「オンラインサロン」を開催する。

②-3 ワーク・ライフ・バランス推進事業

高校生を対象に研修会を開催し、若者の目線での記事を作成し、広報さばえ等に掲載し市民啓発を行う。また、新米ママ・パパ向けの講座や相談会を開催する。

②-4 多様な働き方導入推進事業

在宅勤務(テレワーク)や時短勤務等、働き続けやすい環境整備を行う市内中小企業に対して、その経費の一部を補助する。

②-5 サテライトオフィス誘致事業

大都市とのセミナーや鯖江市体験ツアー等、市の魅力を発信することでIT系企業のサテライトオフィスを誘致し、若者や女性に魅力的な雇用創出と空き家の利活用を目指す。

③健康福祉のまちづくりの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 1・3  3・8 10・2 	指標: 元気生活率 現在(2021年3月): 84.2% 2024年: 81%

誰もが生涯にわたり、健やかで自立した生活を送りながら、目的を持っていきいきと活動できるよう、健康で活躍できる環境づくりを進める。また、高齢者や障がい者など誰もが地域で安心して暮らせるよう、地域住民が主体となって、お互いに助け合い、支え合うことのできるまちづくりを推進する。

③-1 いきがい講座事業

健康で生きがいのある生活を送り、長寿を喜べる社会づくりのため、高齢者の学習活動への支援として各種講座を開催する。

③-2 高年大学運営事業

高齢者が生涯学習の楽しみと趣味の増進を通して仲間づくりの輪を広げ、あわせて地域社会活動に積極的に参加しながら、より豊かで充実した社会生活を営むことができるよう、生涯学習施設を運営する。

③-3 ふくいのグランパ・グランマ養成支援事業

地域の中で子育てのサポートを受けられる環境づくりのために、子育て支援を行うことが

できるボランティア(ふくいのがらんぱ・がらんま)を養成する講習会を開催し、地域の子どもは地域の中で育てていくという機運を醸成する。

③-4 健康づくり推進員活動

各町内からの推薦を受け、市が委嘱する健康づくり推進員の活動を通じ、地域に密着したきめ細かい健康づくり事業を推進する。

④鯖江モデル教育の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4・4  4・7  11・4	指標: 行政出前講座(歴史・文化)の参加者数	
	現在(2021年3月):	2024年:
	736人	1,300人

先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学ぶことを通じて、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、2030年の社会の担い手となる子どもたちにSDGsを理解する学習を取り入れ、身近なところから考えるきっかけづくりを進めることで、持続可能な社会を築く子どもたちを育成する。

④-1 こどもエコクラブ活動助成事業

市内小学生の自発的な環境活動を支援し、環境に対する意識の更なる向上や環境保全活動の推進を図る。

④-2 ふるさと教育推進事業

各小学校に講師を招き、鯖江の自然・文化・伝統・産業を学ぶことを通じて、自分の住んでいるまちに対して関心を持ち、愛着と誇りが持てるような児童を育てる。

④-3 産業を体験し理解を深める学習事業

三大地場産業(眼鏡・漆器・繊維)、について理解や関心を深めるため、小学校児童には製作体験、中学校生徒には、デザイン教室を実施し、鯖江の発展について自ら考えることのできる人材を育成する。

④-4 SDGs 教育推進事業

小中学生を対象に、SDGsに関連している学習と連動させた活動を行うことで、自分事として行動に移せるようにする。小学生はSDGs推進センターをはじめとする、SDGsに取り組む企業等を訪問し、学ぶ機会を設ける。中学生については、講演会等を開催し、理解を深めることで、行動に結びつける。

④-5 クリエイティブ教育都市事業

子どもたちにプログラミングなどの技術を習得させるため、小学校において専用パソコンを利用したプログラミングクラブを開催し、IT社会を支えていく子どもたちを育成する。

⑤環境にやさしいまちづくりの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7-2  13-3  15-1	指標: CO ₂ 排出量	
	現在(2019年3月): 589,000t	2024年: 487,433t

市民・市民団体・事業者・行政が二酸化炭素削減に向けたまちづくりについて、ともに考え、ともに行動することにより、家庭や事業所における省エネ活動や公共交通機関の利用促進など、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量「実質ゼロ」を実現し地球温暖化防止のための対策を推進する。

⑤-1 廃棄物分別・ごみ減量化・資源化啓発事業

町内会等に対し、リサイクル施設見学会や出前講座を開催し、市民のリサイクル意識を高めることで、ごみの減量化・資源化を推進する。

⑤-2 脱炭素を通じた市内産業・企業支援事業

市と鯖江商工会議所、中小機構北陸本部等の連携のもと、脱炭素社会で求められる ESG 経営や新商品開発を中心に地域産業の課題解決の支援を行う。

⑤-3 さばえエコ農業支援対策事業

化学肥料・農薬等の削減による生物多様性保全、地球温暖化防止などに効果の高い営農活動に取り組む農業者を支援する。

⑤-4 SABAE ボトルフリープロジェクト

公共施設にウォーターサーバーを設置し、マイボトル持参を促すことで、市民の環境問題への意識向上とペットボトルなどのごみを削減する。

(2)情報発信

(域内向け)

2020年9月に開設したSDGs推進拠点施設「さばえSDGs推進センター」(以下、推進センター)が中心となり、市の取組を発信したり、市民、市民団体、企業、学校などへSDGsの啓発・推進を行ったりしている。その他、市内企業からの各種相談にも応じている。また、各々がステークホルダーとして連携してアクションを起こすべく、推進センターがそれぞれをつなげるプラットフォームとなっており、イベントや研修会などを通して発信・啓発し、SDGsの認知度向上を図っている。そこから、市全体のSDGs推進のボトムアップを図り、市民や企業の行動につなげるきっかけづくりを促進している。

<事業例>

- ・市民のSDGsに対する認知度を高めるため、「SDGs月間」として強化月間を設定し、その間、関係団体が連携して、さまざま事業を通してSDGsを発信する。
- ・市民団体、企業、行政が連携して開催するイベントにて、SDGsをテーマとした関連ブースや展示ブースを設け、啓発する。
- ・本市のSDGs推進に賛同する、国内の産官学民等の団体を会員として活動の活性化や事業拡大を図ることを目的とした会「さばえグローバルクラブ」の会員と連携し、推進活動を活発化させるとともに、会員数を増やす。
- ・推進センターを活用した事業、イベントを通して、マスコミ報道やSNSを活用し、本市のSDGs推進の取組を県内外に情報発信する。
- ・市民団体と連携し、カードゲームによるSDGsの啓発活動や市民向け研修会を開催する。

(域外向け(国内))

国内で開催される様々な会議や研修会などを通して、鯖江市のSDGsの取組を発信するとともに、連携している大学、企業、NGO団体などと協働で事業・研究を実施し、情報発信(SNSの活用)することにより、活動フィールドの拡大や新しい事業展開を行う。

推進センターのSNSを活用し、域内で実施している推進活動を情報発信することで、仲間を増やし(フォロワー数)、新たな情報の共有やオンラインを通じての交流会、セミナーなどを実施する。

<事業例>

- ・国内で実施されるオンラインセミナーにおいて鯖江市のSDGsの取組を発信する。
- ・県外の連携企業、団体へのWebサイトでの発信
- ・全国の眼鏡小売店と連携した啓発キャンペーンの実施
- ・学生や市民団体とのオンライン交流会での取組の発信
- ・研修旅行の受入れによる本市の取組の発信

(海外向け)

鯖江市で活躍する若者や女性に焦点を当てたレポートやその他の鯖江市の取組みを映像等で見える化し、SNS上で公開する。

また、鯖江市のSDGs推進シンボルマーク「グローバル」を活用して、眼鏡を活用したキャンペーンを実施し、様々な機会を通して、世界に発信する。

現在、海外向けに、積極的に鯖江市のSDGsの取組みを紹介するため、SNSでの発信に英訳を付けて発信し、フォロワー数の1割が海外という成果も出ている。今後は発信する映像についても英訳を付け、発信する。

<事業例>

- ・めがねのまちさばえ SDGs 発信事業による発信
- ・JICA 北陸と連携した視察団の受入れ(オンラインと併用)
- ・推進センターから発信するSNSの英訳付きでの発信

(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

鯖江市の自治体 SDGs の推進に資する取組みは、多くの自治体が直面している課題に対し、市民との協働や学生との連携など、若者や女性を中心とする市民の活躍によって解決を目指すものであり、全ての自治体への普及展開が可能である。

なお、5 月には、県内外に発信力の大きく、地域特性を活かした市民、企業、団体が協働で実施するイベント「めがねフェス」をはじめ、6 月には市民団体、NPO 団体が主催する「プライドマンス展」「さばえ環境展」等で、イベントと絡めた SDGs の啓発を行い、自分事として意識してもらえよう、認知度の向上を図る。

また、6 月は福井県の男女共同参画月間であり、6 月 23 日から 29 日は国の男女共同参画週間であることから、男女共同参画・女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」と協働で、ジェンダー平等についての講演会や展示などを実施。さらに、この 6 月を「SDGs 月間」とし、これらのイベントと鯖江市の SDGs の取組みを絡ませ、企業と連携したイベントや中学校での講演会、セミナーなどを開催している。

10 月には、1 日が「眼鏡の日」、10 日が「目の愛護デー」であることを活用し、めがねのまちさばえの SDGs の行動を見える化した市民参加型のイベントを開催する。また、市内において、全国から約 4 万人が集う工房開放イベント「RENEW」が開催される。来場者の多くが 30 代から 40 代の女性で、6 割強が県外から来訪するため、鯖江市の SDGs を意識したものづくりの取組みを「推進センター」を中心に発信し、本市の推進活動を知ってもらう機会に活用する。

現在、鯖江市が推進する「ものづくり」や「まちづくり」「ジェンダー平等」を軸とした SDGs の取組をテーマに、県内外の中学校、高校、大学生、海外留学生の学びの場として活用したいとの依頼があるほか、学生団体とのオンラインによるワークショップや JICA を通じ、海外の行政職員へのオンライン研修なども実施している。今後も積極的に受入れ、本市の取組の横展開を図る。

また、様々な企業や大学と連携し、環境負荷の低い新素材を活用したアップサイクルシステムやサーキュラーエコノミーの仕組み、エシカルな観点でのものづくりについて等、SDGs の勉強会を含めた活用セミナーなどを開催し、横展開を図る。さらに、商工会議所や中小機構北陸本部と連携し、SDGs をビジネスチャンスにつなげる相談、新商品開発、販路開拓支援を開始し、市内の中小企業に向けて積極的な推進を図る。

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

計画期間を終えるものから、順次 SDGs の視点を盛り込んだ計画に改訂している。

市の最上位計画である総合戦略の改訂に伴って、具現化のための事業を位置付け、実行していくため、各種計画の体系化を進め、SDGs を推進している。

1. 鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2018 年度に、重点施策の中に包括的な指針として SDGs の理念を追記。

2020 年度からの第2期計画では、SDGs の各目標達成と関連した実施施策やKPIを設定し、全面に盛り込んだ内容に改訂した。

2. 第5次鯖江市男女共同参画プラン

「ジェンダー平等を実現し、女性が活躍しやすいまちづくりの推進」を基本理念に、女性のエンパワーメントの促進や男性の理解と意識改革の推進、女性の参画意欲の向上などを盛り込み、あらゆる場において、性別役割分担意識にとらわれない意識改革の推進を目指すこととしている。本プランには「女性活躍推進法」に基づく「女性活躍推進計画」を組み入れている。

3. 第2期鯖江市子ども・子育て支援事業計画

鯖江市に住むあるいは生まれてくるすべての子どもたちに健やかな育ちを支援し、また親の育ちを支援する社会の実現を目指すための計画。

SDGs の理念を反映させ、子育て家庭の経済的な負担や不安感を軽減し、安心して子供を産み育てることができる環境づくりを市民、企業、団体、行政が一体となって支え合うまちづくりを進め、支援する取組を推進する。

4. 教育の振興に関する施策の大綱

2020 年からの新学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」の育成が盛り込まれることを受け、2018 年度に SDGs を理解する学習を取り入れ、身近なところから考えるきっかけづくりを進めることを追記している。

5. 鯖江市消費者教育推進計画

消費者の行動が及ぼす影響力を理解することを通じて、消費者、事業者双方が、自ら学び、考え、行動する持続可能な地域をつくる、活力ある消費者市民社会の実現を目標とし、目標 12「つくる責任つかう責任」を軸にエシカル消費の推進や事業者の意識醸成の推進等を明記している。

6. 鯖江市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業期計画

高齢者や障害のある人等、すべての市民の基本的な人権を尊重し、誰もが障害にわたり健やかで自立した生活を送りながら、目的をもっていきいきと活動し、長寿による豊かさを実感できるよう、「生涯現役で生涯青春のまち」を目指し、高齢者や家族を含め、地域住民、関係機関・団体、事業所・企業等の多様な主体が協働した支援を必要とする高齢者等を支える社会づくりも目指すこととしている。基本目標には、SDGsの視点を導入し、誰一人取り残さないという理念を踏まえた施策となっている。

7. 鯖江市環境基本計画

将来にわたって人と生きものが共生し、持続的発展が可能な社会づくりを進め、良好な環境をすべての市民が享受できるようにするとともに、将来の世代に継承していくため、「共生」「循環」「育成」「連携」をキーワードに、市民・市民団体・事業者と連携、協働により推進していくこととしている。また、鯖江市が行った「ゼロカーボンシティ宣言」、「COOL CHOICE宣言」、「SDGs さばえ宣言」の3つの宣言の考えを取り入れ、計画を推進する。

8. 元気さばえ食育推進プラン(第4次鯖江市食育推進計画)

心身の健康のためには“生涯食育”として、人が生まれてから亡くなるまで、年齢に応じた食育の実践が必要であり、社会全体で取り組む必要があるとして、家庭や地域、学校、生産者、行政等が互いにつながり、包括的な体制で取り組むことを目指している。

「食生活を通じ、世代に応じた健康づくり」、「地域の食文化を再認識し、家族や地域の人々、生産者との関わりの中で、食の大切さを学ぶ教育」、「地産地消の実践に向け、農業を身近に感じ、SDGsの視点で環境への理解を深める」の3つのテーマを設定し、関係機関と連携しながら取り組むこととしている。

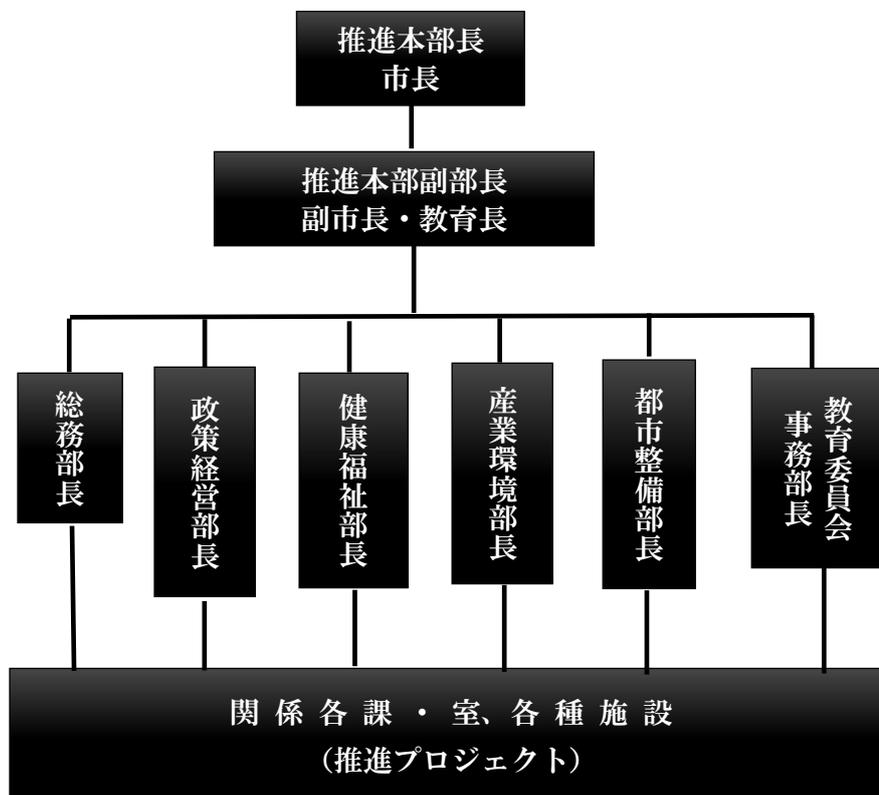
9. 第4次鯖江市農業・林業・農村ビジョン

農業従事者のみならず、消費者や関連事業者、行政等が連携・協働することで、地域を守り・育む、持続可能な農業としての活力を高めることを将来像に、「担い手育成」「農林産物の生産振興」「鯖江ブランドづくり」「食育・地産地消の推進」「鳥獣害の防止」「健全な森林をつくる」「快適で魅力ある農村づくり」の7つの基本方針を掲げ、取り組む。

(2) 行政体内部の執行体制

① めがねのまちさばえ SDGs 推進本部(2018.5.25 設置)(政策会議と併設)

【体制図】



17の目標、169のターゲットに沿った目標達成に向けて、推進方法や各種施策について検討し、総合戦略や各種計画の中に取り組みを明記し、市民や市民団体、経済団体等と共通認識の中で連携する体制を図る。

また、毎年、各部ごとに年度取組目標を定める施策方針に、SDGsの目標達成と関連した数値目標を定め、推進する。

② 持続可能なめがねのまちさばえ推進プロジェクト

推進本部で決定した施策を各課の事業に反映させ、確実な実施につなげる。また、推進に関することを提案し、施策や事業に新たに反映させる。

③ めがねのまちさばえ SDGs 推進会議(鯖江市総合戦略推進会議と併設)

鯖江市総合戦略の中に位置付けられたSDGs推進の計画の実施内容や進捗等について評価し、助言等を行う組織として設置する。市民、産業界、大学、金融機関、労働団体、言論界等のいわゆる「産官学金労言」の有識者で構成。

(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

(市民)

鯖江市民主役条例の「市民が市政に主体的な参加」という目的や「まちづくりの主役は市民である」という基本理念に基づき、SDGs の理念のもと、市民協働で持続可能な地域づくりを目指し、目標達成に向けて推進していく。「さばえ SDGs 推進センター」と男女共同参画・女性活躍推進施設「夢みらい館・さばえ」、環境教育支援センター「エコネットさばえ」「さばえ NPO センター」が連携し、研修会やイベントの開催など、オール鯖江で取り組む機運の醸成と推進を図る。

特に、未来を担う若者たちにも推進活動に参加を促すため、「さばえ SDGs 推進センター」を拠点に学生のプラットフォームを創設し、「鯖江市役所JK課」や「学生団体 With」等と連携しながら、関心のある学生たちを集め、事業を展開する。

(企業、金融機関)

鯖江市は、眼鏡、繊維、漆器の三大地場産業をもつ「ものづくりのまち」である。古くから下請け分業体制のもとで発展してきたため、4人以下の家族経営が多いが、加えて、若者の製造業離れや事業者、労働者の高齢化による担い手不足など課題が多い。

そこで、働き方改革など経営改善の切り札として SDGs を活用した事業展開を図るべく、中小機構北陸本部、鯖江商工会議所、一般社団法人福井県眼鏡協会、協同組合鯖江市繊維協会、越前漆器協同組合、一般社団法人鯖江観光協会、公益社団法人鯖江青年会議所などの団体と連携して、研修会やイベントなど啓発活動を開催し、取組促進を図る。また、連携協定を結んでいる三井住友海上火災保険株式会社や北陸電力株式会社、福井県民生活協同組合などの企業のノウハウも生かし、協働で推進を図る。

金融機関については、既に SDGs 推進に取り組んでいる株式会社福井銀行、福井信用金庫、株式会社北陸銀行と連携し、SDGs 推進のための啓発や新たな事業展開などを行う。

(教育機関)

市の教育大綱に SDGs を理解する学習を取り入れる内容を追記したことに伴い、教育委員会と連携し、小中学校の児童・生徒に向けて、さばえ SDGs 推進センターの見学や研修会、SDGs に関するアート展の開催などを通じて、SDGs の理念の浸透を図る。また、SDGs を自分事として理解を深めるだけでなく、行動につなげることができるよう、NPO 団体や市民団体、企業と連携した事業を実施し、参加の促進を図る。

また、本市に唯一ある高校である、県立鯖江高校と連携し、探究プロジェクトや地域との連携事業を実施。ポスター作成や動画の作成などを通して、SDGs の理解を深め、若者の目線で啓発・推進を図り、情報発信する。

さらに、連携協定を結んでいる、福井工業高等専門学校、福井工業大学、京都精華大

学、明治大学、福井大学、二本松学院、国立情報学研究所、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、津田塾大学、電気通信大学と様々な事業を展開しており、今後も各分野において、SDGsの視点を取り入れた、持続可能なものづくりやまちづくりについて、考察し、具現化を目指す。丹南地域にある仁愛大学とも連携し、福井県内の企業・団体等の取組を促す事業を実施し、活動の活性化を図る。

2. (国内の自治体)

①福井県

県が創設した「福井県 SDGs パートナーシップ会議」と連携し、SDGs に関する理解促進と普及啓発を図り、積極的に取り組む企業や団体との新たな活動展開を促進する。本市の「さばえグローバルクラブ」の県内会員に「福井県 SDGs パートナーシップ会議」の登録を促し、活動の活性化を目指す。

②ふくい嶺北連携中枢都市圏の形成

2019 年度から福井市を連携中枢都市とする嶺北11市町(福井市、鯖江市、越前市、坂井市、あわら市、勝山市、大野市、永平寺町、越前町、南越前町、池田町)による連携中枢都市圏が形成されており、圏域全体の持続的な発展を見据え連携を図る。

③越前ものづくりの里プロジェクト

福井県の伝統的工芸品地が集積している近隣市町(鯖江市・越前市・越前町)と連携し、職人育成や新しいものづくりなど、国内外への魅力発信を通して、伝統工芸従事者の増と需要拡大を図る。

④丹南広域観光協議会

福井県のほぼ中央に位置する丹南地域5市町(鯖江市・越前市・池田町・南越前町・越前町)において、広域的な周遊・滞在型観光推進エリアを創出し、観光地を点から面にパワーアップする。「持続的で関係人口化する来訪・消費」をつくり、地域特性を活かした魅力により、地域の経済活性化を目指す。

3. (海外の主体)

①特定非営利活動法人 国連の友 Asia-Pacific

2015 年より、鯖江市の女性活躍を中心とした番組を地元CATVと制作、放送し、国連へのレポートを実施し、その中の鯖江市の取組みが注目され、2018 年 5 月に鯖江市長が国連ニューヨーク本部にて SDGs 推進会議に出席し、若者がまちづくりに参画している取組を含めた、女性の活躍がまちの魅力につながっていることを紹介。日本眼鏡関連団体協議会、(一社)福井県眼鏡協会、国連の友 Asia-Pacific とで、3 月 8 日の国際女性デーに合わせて、「オレンジめがねキャンペーン」を毎年実施している。2020 年 9 月には連携して「さばえめがねをかけようキャンペーン」も実施し、全国の眼鏡小売店に寄付金を募り、コロナウィルス対応に奮闘している、国内外の医療従事者へ支援を行った。当団体の会長のアンワルル K.チャウドリー大使は「さばえ SDGs 推進センター」の名誉顧問であり、開設の際にも本市を訪れ、ご助言をしていただいた。今後もアドバイス等、連携を図りながら SDGs推

進を図っていく。

②国際協力機構 北陸センター(JICA北陸)

ウガンダ、アフガニスタン、ケニア、タンザニアなどの行政職員に対する産業と女性活躍についての研修や JICA事業で来日している留学生に対する女性活躍についての研修の受け入れを実施。今後も実施予定。

③国際連合地域開発センター(UNCRD)

セミナー開催協力やSNSを活用した海外への情報発信について助言等を受けている。

(4) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

鯖江市の SDGs 推進に賛同する産官学民等の、様々な企業や団体(ステークホルダー)を会員として、会員同士の連携や情報交換を通して取り組みの相乗効果を創出し、各々の SDGs 推進における活動の活性化や、事業の拡大を目指すことを目的とした「さばえ SDGs グローカルクラブ」を 2021 年 2 月に創設。参加要件には、事業の展開の広がりやを考慮し、県内外問わないこととした。福井県において登録制度である「福井県パートナーシップ会議」が設置されているため、県内のグローバルクラブ会員については参加を推奨し、県との連携を図っている。

また、本市の SDGs の取組を学びたいと県内外からの視察や研修旅行も多く、大手旅行会社からの問い合わせもあるため、拠点を活用したワークショップの開発やワーケーション、産業観光と絡めた事業の展開を図り、関係人口、交流人口に結びつけて、地域活性化につなげる。

現在、連携協定を締結している独立行政法人中小整備基盤整備機構北陸本部、鯖江商工会議所とで、さばえ SDGs 推進センターに SDGs 相談窓口を設置。中小機構が運営するビジネスマッチングサイトに鯖江市企業の SDGs に貢献する商品・製品を掲載する特設サイトを開設。さらにセミナー等を開催し、SDGs 貢献企業を増やし、地域経済の活性化につなげる。

(将来的な自走に向けた取組)

SDGs 推進拠点施設である「さばえ SDGs 推進センター」が本市の SDGs 推進の求心力となり、センターを中心に、地元企業をはじめ、県内外の企業や学校と連携して、啓発イベントやアート展、ワークショップなど、様々な SDGs 推進活動が展開されている。このような活動をはじめ、市民団体と協働で開催するセミナーや講演会を SNS 等で知り、「SDGs 推進」を共通ワードに、県内外より訪れる企業や学生も多い。このような関係性により、事業連携や地域企業につなげるような取組を図っており、将来的には財源確保を含めて、企業と連携した取り組みに発展していくことを目指している。

4 地方創生・地域活性化への貢献

地域のブランド力を高め、魅力ある雇用を生み出し、若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりをSDGs目標達成の取組みを通して実現を目指すため、「第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、先導的、横断的な取組みとして、重点施策に「SDGsの推進」を設定した。SDGsは、全ての関係者の役割を重視し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題に統合的に取り組むものであり、本市が目指す、持続可能なまちづくりや地域活性化に向けての取組みを推進するに当たって、政策全体の最適化、地域課題解決の加速化という相乗効果が期待でき、地方創生の取組の一層の充実・深化につなげることができる。

SDGsを展開していくためには、行政におけるエンパワーメントはもとより市民や市民団体、企業などあらゆるステークホルダーにおけるエンパワーメントが重要である。SDGsを展開していくのは人であり、連携して取り組むことで、各事業の成果が期待できることはもとより、高い相乗効果を生み出すことにもなる。

鯖江市のランドマークであるめがね会館9階に一般社団法人福井県眼鏡協会の協力のもと開設した「さばえSDGs推進センター」は、本市のSDGs推進のハブ的な拠点施設であり、産官学民が連携し、様々な施策を展開しており、連携する企業や市民団体、学校での活動が活性化している。このような活動を情報発信することで、市民一人ひとりが「自分事として行動する」ことが持続可能な社会づくりに貢献するという意識の醸成を生むことにつながり、SDGs推進が身近なことだという気づきにもつながっている。

また、地域特性を活かし、女性のエンパワーメントを創出することで、地域のエンパワーメントにつなげていくことを掲げ、先進的な取組みを「見える化」し発信してきたことで、若者や女性に関心が高まり、「女性」という枠にとらわれず、性差関係なく、潜在的ポテンシャルが十分に活かされるような環境づくりが重要であるという意識につながっている。

今後も、「さばえSDGs推進センター」を中心に、男女共同参画・女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」と連携し、多様な世代や様々なステークホルダーが集い、活動し、活躍し、挑戦できるまちを目指し、経済・社会・環境の3分野において、ジェンダー平等の実現を軸とした「居場所」と「出番」づくりを創出する。そのような環境の中で、女性のエンパワーメントを生み、子どもや男性、地域のエンパワーメントにつなげ、誰もが意思決定への参加ができ、リーダーシップの機会が生まれるよう拡大を図る。

①ものづくりのまちの経済成長の推進

産地企業のデザイン力・マーケティング力を強化し、ブランド力と収益性を向上させるとともに、地場産業の蓄積した高度な技術を活用した成長分野への進出と、農商工連携による新たな商品の開発や農業の6次産業化、サテライトオフィス業の積極的な誘致、産業観光

の促進などにより、若者や女性にとって魅力ある雇用の場を創出する。

②市民・学生との協働によるまちづくりの推進

学生を中心とした若者や女性を市政の「パートナー」と位置付け、若者達のチャレンジを全力で応援し、その創造力を市政に活用する。また、市民がそれぞれの個性をいかしながらいきいきと活躍できるよう、居場所づくりを推進し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、市政に直接的に広く参画するような、市民活躍、全員参加のまちづくりを推進する。

③誰もが輝くまち鯖江の推進

性別関係なく、誰もが活躍しやすい環境の見える化やワーク・ライフ・バランスの推進、子育て環境の整備、人生・生活に寄り添ったヘルスケアの推進を図る。また、世界的に遅れていると言われている政治・経済分野における女性リーダーが輩出しやすいよう、環境の醸成に積極的に取り組む。並行して、居場所と出番の創出およびインポスター症候群をはじめとする、社会進出を阻害している要因の調査・対策に取り組む。

④環境にやさしいまちづくりの推進

市民・市民団体・事業者・行政が連携を図り、環境に配慮して行動できる人材育成に取り組んでいる中で、循環型社会に向けて、5R(リユース・リデュース・リサイクル・リフューズ・リペア)やエシカル消費の活動が活発化している。また、アップサイクルなどをはじめとするサーキュラーエコノミーの啓発も活発化しており、環境負荷の低い製品の開発にも取り組んでいる企業も増えている。空き家の利活用においても、企業、市民、行政が連携し、マッチングなどに取り組んでいる。しかし、活動は活発化しているものの、ごみの減量化には成果が見えないため、さらなる循環型社会の構築を目指すことで、自然環境や公共空間の管理を一体的に推進し、住みたい、住み続けたいと思える生活環境を整備する。

福井県鯖江市 第2期SDGs未来都市計画（2022～2024）

令和4年3月 策定